

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600493		
法人名	有限会社 富南		
事業所名	グループホーム富南の郷里		
所在地	静岡県三島市安久660番地の10		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	令和5年5月2日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouyoCd=2270600493-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 3月 20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム富南の郷里は、伊豆の玄関口三島市の最南端に位置し、函南町と隣接した場所にあります。「豆州志稿」の秋山富南が生まれ育ったおよそ3,000坪の敷地の中にあり、北方には富士山を望み、東方には箱根連山を見渡すことのできる環境の中で理念にもあるゆったりとした空間とゆっくりとした時間を提供できるよう心掛けています。天気の良い日には、敷地内や近くの公園まで散歩をし、玄関前には草花を植え季節の移り変わりを感じていただいています。法人本部が中心となり秋にはサツマイモを収穫し、そのサツマイモを焼きいもにして皆様のおやつに召し上がっていただいたり貯蔵して食事やおやつで召し上がっていただくようにしております。コロナ禍ですが面会の仕方も工夫してなるべくお顔を見ていただけるようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームは広い敷地の中にあり、シーズンごとに実なる木や花で季節の移り変わりを感じられる環境である。今年度は畑の手入れに力を入れ、季節の野菜やサツマイモを作り、食事に提供したり、南側の花壇にひまわりを植えるなどの生活リハビリに力を入れ、今後も継続を計画している。2月にグループホームの2階で利用者と職員がコロナに感染し、改めて感染対策の見直しを行い、法人からの職員補填等で現場対応を行った。コロナ禍でも運営推進会議を開催し、地域住民も参加、意見も多くあり、運営に役立てられている。夏には水害に見舞われ、早めの垂直避難の有効性や災害対策の訓練など法人での対策が活かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中にある、その人らしさ・ゆったりとした空間とゆったりとした時間を提供させていただき、公平・平等に尽くさせていただく事でそれぞれの利用者様の第3の人生の生きがいを共に歩む介護を目指し、職員一同が日々取り組んでいます。	各階、目につく所に理念を掲示し、会議や申し送りの時に理念を意識してもらうように理念に関する話をしている。職員は「ゆったり・ゆったり」を心掛け、日々の介護に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、行事などの情報を取り入れられるべく参加できるようにしています。地域運営推進会議に町内会長や民生委員近隣住民の方に参加していただき情報の共有に努めております。	事業所は以前から地域に根ざし、町内会に所属し、協力や連携が得やすい関係を築いているので、情報の収集や隣の函南町の行事も把握している。昨年から三島大社のお祭りが復活し、利用者が楽しみにしている地域のお祭りへの参加も計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	台風や河川氾濫などの災害時、同法人所有の建物に避難住民を受け入れるように町内会や隣接する函南町間宮地区との連携を法人主体で連携を強めております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の現況や活動報告、ヒヤリハット・事故報告をさせていただき、今年度からは同法人所属の介護支援専門員が介護相談日を設け地域住民を支援できるよう発信するとともに、地域運営推進会議内で身に研修をの時間を設け参加者からの意見をいただきより良い介護ができるようサービス向上に努めています。	コロナ禍でも法人が所有している別棟に集まり対面開催をしている。自治会長、民生委員、地区住民、市議会議員、包括支援センター職員の参加で意見交換がなされ、今年度から事業報告をパワーポイントで行い、写真を見てもらった。職員へは議事録を回覧して共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加していただき、意見や情報をいただいたり、年4回三島市のグループホーム連絡協議会に出席し情報交換や情報の共有を行い、介護の日にはグループホームの紹介や各施設の活動を写真展示の形で行っています。	地域包括支援センターとは入居相談等があり、行政とはグループホーム連絡会で研修や意見交換が行われ、他事業所の様子や情報を共有している。介護の日の写真展で、行政から「グループホームとは？」とのテーマで活動紹介があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、法人内に委員会を設置し、参加した職員より各事業所の取り組みを話し合いその後各事業所にフィードバックして研修を開催し周知するようにしています。身体拘束廃止マニュアルを準備し、やむ負えない場合には主治医、看護師、職員、ご家族との話し合いの場を作り、ご家族より同意をいただくようにしています。	指針とマニュアルは整備され、委員会は法人全体で3か月に1度開催され、内容は職員にフィードバックされている。研修はユニット会議で随時行われている。	

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関しても、身体拘束廃止と同様に委員会での取り組みを各事業所に持ち帰り研修を行うとともにチェックシートを使い職員の高齢者虐待防止への意識を高めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、2名の方が後見人制度を利用されています。また1名の方の後見人制度の利用の為、個人情報シートの作成や診断書の取り寄せの依頼を行っています。また御家族から依頼のあった場合は後見人支援センターとのスムーズな話し合いができるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご本人(立ちあえる方のみ)ご家族に同席いただき、契約書・重要事項説明書・その他の書類について説明させていただき、入居に際しての不安を取り除くようにしております。また制度改正等による変更のあった場合は、変更の同意書にサインをいただくようにしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議への参加を促し、毎月の手紙や管理者より電話・メールにより入居者様の様子を伝えることを継続的に行い、ご家族からの不安の抽出に努めています。	家族へは運営推進会議の参加を促し、アンケートも毎年、実施している。月に1回利用者の様子を担当者が記入し写真を添えて家族に送付している。管理者はこまめに電話をかけたリメールをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員会議や個人面談で職員の意見や提案を聞き、要望や問題解決を法人会議で話し合い反映するようにしています。、	半年に1度、管理者と職員は面談を行い、管理者は職員の様子を見て、個別に声かけをしている。法人は、職員から直接意見を聞く機会を設けている。ユニットごとに毎年目標を設定し、事故報告とヒヤリハットを記入するようにしている。長く働いている職員が多く、情報共有がされ、得意な分野で力を発揮して働いている。	ヒヤリハットの件数が少ない月がある。ヒヤリハットは事故を未然に防ぐためのみならず事故が起きないような気づきを促すもので介護の質を上げるツールです。気づきを記録して今後のケアに役立ててください。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入職時の面談の際に個人の思いを聞き事業所運営に役立てるようにしています。ユニット会議内の身に研修で介護技術や認知症の方へのかかわり方などを学び個々のスキルアップを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で実務者研修の研修場所を提供し研修を受ける機会を確保するとともに、ユニット会議内で行う身に研修の講師を交代で行う事により個々のスキルアップを図っています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三島市のグループホーム連絡協議会に参加し、情報交換をおこなったり、感染症対策など情報を共有しています。定期的に認知症についての様々な研修を行い職員に周知するようにしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談を行い、不安な事、困っていること等要望を聞かせていただき、安心で安全な環境を提供するよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や面談の際にご家族の困っていること要望等を聞かせていただき、入居後も連絡を密にして信頼関係を築くように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規入居者には、相談及び面談の際に伺った情報をもとに、必要な支援を行う事で、安心安全な生活が送れるよう支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の皆様は人生の先輩であり常に尊敬の気持ちをもって接するようにしています。出来る事やお手伝いをしていただき、難しいことは支援してお互いに助け合って生活しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送付する請求書の中に、居室担当者が入居者差の様子を写真を添えてご家族様に伝えるようにしています。コロナ禍で面会できないことが多かったため、管理者より電話等にて入居者様の現況を伝えるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近年、コロナ禍で一番難しい問題になっています。ご家族でも面会を制限させていただいたり、禁止させていただいていることもあり、ご家族以外の方と会う機会はほとんど持っていないのが現状です。	コロナの状況を配慮して家族との面会は工夫して行っていたが、外出や行事などがなくなっ てしまい、利用者は馴染みの関係が希薄になっている。	今後、アフターコロナを見据え、今まで築き上げてきた地域との関係や家族との絆を大切に する支援の回復に期待します。

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の個性や生活歴その時々状況、相性などを考え職員が調整役となり入居者様同士が支えあい助け合う事ができるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先での生活(サービスを含)が安心安全に過ごしているか退去後の様子をご家族に伺ったり、お困りの際には相談に乗るようにさせていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活となるべく変わらぬよう居室の家具の配置を工夫したりして安心安全に過ごしていただけるようにしています。居室には名札を付けたり廊下に出るとトイレがすぐに確認できるようにして不安を軽減するようにしています。	入居前に得た情報は職員と共有し、その後は業務日誌や申し送りノートを利用して情報を共有している。月の会議ではカンファレンスを行い、本人本位の介護方針を職員で話し合い、実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の皆様との会話やコミュニケーションの中から今までの生活やなじみの暮らしを聞かせていただき、ご家族からも生活歴などの情報を聞き把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個々の日々の様子を観察したり、介護記録や業務日誌、カンファレンスで職員間で情報を共有するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご本人の気持ちを考え、ご家族様の意向を伺い、毎月行う職員会議の中で看護師を交え居室担当を中心にモニタリングを行い日頃の気づきを介護計画に反映するようにしております。	カンファレンスは話し合いが必要な方から毎月3~4人、会議で行っている。日頃の利用者の様子は業務日誌と申し送りノートに詳しく記入してあるので、モニタリングはそれらをみて短期目標をチェックして行っている。関係者の意見を反映して介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、健康管理表、排泄管理表等で日頃の状況を把握し、介護記録に実施内容を記録し、申し送りノートを活用して情報の共有を行い介護計画の見直しに役立てています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様本人やご家族様の要望、その時々で抽出される問題に法人全体で対応して可能な範囲で柔軟に支援ができるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で近隣の人々の受け入れや行事等が中止になっている為難しい状況ではありますが、職場体験や実習生の受け入れは積極的に新しい人材確保にも勤めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にご本人様、ご家族様の医療に対しての要望を伺い、継続してかかりつけ医に通院されるか、施設と連携している訪問診療医に変更するかを選択していただき、適切な医療を受けられるよう支援しています。	ほぼ全員の利用者が協力医に月2回の往診を受けている。協力医は24時間対応で、他科の初期対応や専門医の紹介をしてくれる。専門医受診は家族対応である。施設の看護師が週3回健康チェックをしていて、体調の変化についての相談ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師が週3回健康チェックを行い、職員会議に参加して情報の共有に努め訪問医との連携を取り適切で迅速な連携が取れるようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院と連携を取り実際の状態の把握に努め、情報を提供していただき、施設での対応や体制を説明し、連携を取りながら早期退院につながるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の在り方について自施設の指針を説明させていただいております。 終末期には、主治医・ご家族様・看護師・職員で話し合いを行い、ご本人様・ご家族様のご意向に沿えるよう支援させていただいております。	入居時に重度化、終末期の方針を説明し、「状態変更や急変時における医療等に関する意思確認書」に意向を記入してもらう。終末期になった時には医師、家族、看護師、職員で話し合っ方針を決め、「意思確認書」の再確認と「看取りの同意書」をもらっている。看取りの研修は年1回基本と、看取りの利用者の状態に合わせて随時行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応するようマニュアルを用意し、入居者様の急変時や事故発生時に全職員が応急手当や初期対応ができるよう日頃から準備しています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設として年2回以上の災害時の訓練を実施し、地域との協力体制を築いています。また緊急連絡網を作成し、通信・連絡の職員による訓練を実施しています。また、法人全体及び施設としてのBCP計画の作成を進めています。	年2回以上、地震、火事、水害を想定した訓練を行い、特に水害の訓練では、2階への垂直移動を重点に行っている。事業所にはAEDや発電機が装備され、取り扱いの訓練も行っている。備蓄は事業所、法人でも準備し、炊き出し訓練も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、プライドやプライバシーを傷つけないよう温かい声掛けを行い受容の心で支援させていただいております。	利用者の話を聞くことを大切にし、好きなことをしてもらうよう心掛けている。知り得た情報は申し送りノート、業務日誌に記録し、共有している。市のグループホーム連絡協議会に参加し、そこで得た研修内容を職員に伝え、最近では「コンプライアンス、人格について」学んだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく、表情や動作をよく観察し、ご本人様の思いを受け止め、一人一人のご要望や自己決定ができるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々のペースや思いを大切に、一日をどのように過ごしたいかを聞き取り体操・レクリエーション等も取り入れご希望に沿った支援を心がけております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍で外出できる機会がほとんどありませんが、2か月に1度の訪問理容でヘアカットを行い、衣類を選んだりその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援させていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食はゼロクックを利用し、昼食・夕食はほとんどの日を調理員による手作りで食事を提供しております。おやつも以前は買ったものがほとんどでしたが、現在は調理員による手作りのおやつを提供しております。毎月1度は、お楽しみ食事を開催しております。	昼、夕食、おやつは専門の職員が調理し、パンや麺類も定期的に取り入れている。誕生会にはケーキを提供し、月に1度のお楽しみ食は利用者から「お刺身を食いたい。」という希望が多いので、生ものを取り入れたちらし寿司を提供することが多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々の食事摂取量と水分量を記録し、水分摂取の少ない方にはゼリーを作り召し上がっていただいております。身体状況に合わせ、普通食・キザミ食・ペースト食の対応をしております。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにて口腔ケアを行っていただいております。出来る方はご自分で、できない方はお手伝いさせていただいております。義歯は夕食後お預かりさせていただき洗浄剤で消毒を行っています。2名の方が訪問歯科で口腔ケアや義歯の調整を実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表をつけ、入居者様個々の排泄パターンを把握し、時間での声かけや表情に注意を払い誘導するなどの自立に向けた支援をさせていただいております。	利用者の排泄パターンを把握して、2時間おきの声かけや表情や仕草に注意し対応したり、また自立している利用者には見守り、個別対応をしている。夜間もポータブルトイレの使用や睡眠の妨げに配慮しながら、トイレ誘導、パットの交換をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期を把握し、体操への声かけや主治医への相談等で個々に合わせた予防に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴の機会を提供しております。体調等により日にちの変更や時間の変更の対応しております。状況により時間を問わずシャワー浴・手浴・足浴の対応しております。	週2回、入浴剤を使用して入浴を楽しめるようにしている。拒否のある利用者には声かけを工夫し、同性介助の対応も行っている。湯船に入ることが難しい利用者にはシャワー浴をしていて、手や足が冷えやすい利用者には手浴、足浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は入居者様の体調や習慣に合わせ、必要に応じて居室で休めるよう環境づくりをしています。夜間気持ちよくお休みいただけるようリネン類の洗濯や布団干しを定期的に行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援・服薬介助を入居者の個々の状況に合わせて行っております。新しく処方された薬に関しては、体調の変化など注意深く観察し記録に残し、主治医や看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々の状態に合わせ、洗濯物干し・洗濯物たたみ・おしぼり巻き等出来ることを手伝っていただいております。ストレスの解消に散歩や体操に参加していただいております。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会がほとんど持てず、建物の外に出るのは敷地内の散歩や近隣の公園への散歩を楽しまれています。車窓から季節の移り変わりを感じていただけるようドライブを定期的に行っております。	施設は広い敷地に囲まれ、季節がわかる木々や植物が植えられている。それを見ながら散歩や近くの公園へ足をのぼしたり、デイサービスの車で花見、紅葉狩りのドライブ、軽自動車です少人数のドライブをすることもあ。家族の面会はコロナの状況をみながら行い、敷地内や公園を家族と散歩できるように配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居なさる際にご家族にトラブルのもとになることをご理解いただき金銭の所持はお断りしています。但し所持していないことで不穏になる方もいるため最低限の金銭を所持することは許可しています。必要な日用品などは、預り金や立替えも対応しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、各フロアや事務所から電話をご利用いただけます。手紙はご希望により年賀状やお手紙の支援をさせていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるよう入居者の皆様で壁紙づくりをしたり、窓からや外に出て自然の景色を楽しんでいただいております。清掃をこまめに行い、清潔で明るく現在は定期的な消毒で感染症にも気を配り居心地の良い環境づくりに取り組んでおります。	居間は、一日中陽当たりが良く、窓からは川の土手を散歩する人々が見られる。季節を感じる作品作りは利用者職員が考えて制作し掲示している。感染対策に注意し、清掃、換気、消毒を定期的に行い、モップがけは利用者に手伝ってもらうこともある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルやいす、ソファ、簡易ベッドを置き、お好きな場所で過ごしていただき、入居者様の相性により定期的な席替えを行い会話を楽しむ空間づくりを心がけております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際にご家族に依頼し、使い慣れたものやお気に入りのものを持ってきていただき居心地の～空間づくりを工夫しております。	居室にはクローゼットが備え付けられ、季節の布団衣類、リハビリパンツ、パットが収納できる。使い慣れたタンスや椅子、系列のサービス付き高齢者専用住宅から移った利用者はそのまま荷物を持ち込まれている。家族の写真や塗り絵の作品、共同作品など気に入った掲示物を飾っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線を考え居室内の模様替えを行い自立支援のお手伝いをさせていただいております。居室の名札やトイレの表示などで入居者様が迷わないよう工夫しております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600493		
法人名	有限会社 富南		
事業所名	グループホーム富南の郷里		
所在地	静岡県三島市安久660番地の10		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和5年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270600493-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和	5年	3月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム富南の郷里は、伊豆の玄関口三島市の最南端に位置し、函南町と隣接した場所にあります。「豆州志稿」の秋山富南が生まれ育ったおおよそ3,000坪の敷地の中にあり、北方には富士山を望み、東方には箱根連山を見渡すことのできる環境の中で理念にもあるゆったりとした空間とゆったりとした時間を提供できるよう心掛けています。天気の良い日には、敷地内や近くの公園まで散歩をし、玄関前には草花を植え季節の移り変わりを感じていただいています。法人本部が中心となり秋にはサツマイモを収穫し、そのサツマイモを焼きいもにして皆様のおやつに召し上がっていただいたり貯蔵して食事やおやつで召し上がっていただくようにしております。コロナ禍ですが面会の仕方も工夫してなるべくお顔を見ていただけるようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中にある、その人らしさ・ゆったりとした空間とゆっくりとした時間を提供させていただき、公平・平等に尽くさせていただき、それぞれの利用者様の第3の人生の生きがいを共に歩む介護を目指し、職員一同が日々取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、行事などの情報を取り入れなるべく参加できるようにしています。地域運営推進会議に町内会長や民生委員近隣住民の方に参加していただき情報の共有に努めております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	台風や河川氾濫などの災害時、同法人所有の建物に避難住民を受け入れるように町内会や隣接する函南町間宮地区との連携を法人主体で連携を強めております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の現況や活動報告、ヒヤリハット・事故報告をさせていただき、今年度からは同法人所属の介護支援専門員が介護相談日を設け地域住民を支援できるよう発信するとともに、地域運営推進会議内で身に研修をの時間を設け参加者からの意見をいただきより良い介護ができるようサービス向上		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加していただき、意見や情報をいただいたり、年4回三島市のグループホーム連絡協議会に出席し情報交換や情報の共有を行い、介護の日にはグループホームの紹介や各施設の活動を写真展示の形で行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、法人内に委員会を設置し、参加した職員より各事業所の取り組みを話し合いその後各事業所にフィードバックして研修を開催し周知するようにしています。身体拘束廃止マニュアルを準備し、やむ負えない場合には主治医、看護師、職員、ご家族との話し合いの場を作り、ご家族より同意をいただくようにしています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関しても、身体拘束廃止と同様に委員会での取り組みを各事業所に持ち帰り研修を行うとともにチェックシートを使い職員の高齢者虐待防止への意識を高めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、2名の方が後見人制度を利用されています。また1名の方の後見人制度の利用の為、個人情報シートの作成や診断書の取り寄せの依頼を行っています。また御家族から依頼のあった場合は後見人支援センターとのスムーズな話し合いができるよう支援		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご本人(立ちあえる方のみ)ご家族に同席いただき、契約書・重要事項説明書・その他の書類について説明させていただき、入居に際しての不安を取り除くようにしております。また制度改正等による変更のあった場合は、変更の同意書にサイン		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議への参加を促し、毎月の手紙や管理者より電話・メールにより入居者様の様子を伝えることを継続的に行い、ご家族からの不安の抽出に努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員会議や個人面談で職員の意見や提案を聞き、要望や問題解決を法人会議で話し合い反映するようにしています。、		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入職時の面談の際に個人の思いを聞き事業所運営に役立てるようにしています。ユニット会議内の身に研修で介護技術や認知症の方へのかかわり方などを学び個々のスキルアップを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で実務者研修の研修場所を提供し研修を受ける機会を確保するとともに、ユニット会議内で行う身に研修の講師を交代で行う事により個々のスキルアップを図っています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三島市のグループホーム連絡協議会に参加し、情報交換をおこなったり、感染症対策など情報を共有しています。定期的に認知症についての様々な研修を行い職員に周知するようにしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談を行い、不安な事、困っていること等要望を聞かせていただき、安心して安全な環境を提供するよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や面談の際にご家族の困っていること要望等を聞かせていただき、入居後も連絡を密にして信頼関係を築くように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規入居者には、相談及び面談の際に伺った情報をもとに、必要な支援を行う事で、安心安全な生活が送れるよう支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の皆様は人生の先輩であり常に尊敬の気持ちをもって接するようにしています。出来る事やお手伝いをさせていただき、難しいことは支援してお互いに助け合って生活しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送付する請求書の中に、居室担当者が入居者差の様子を写真を添えてご家族様に伝えるようにしています。コロナ禍で面会できないことが多かったため、管理者より電話等にて入居者様の現況を伝えるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近年、コロナ禍で一番難しい問題になっています。ご家族でも面会を制限させていただいたり、禁止させていただいていることもあり、ご家族以外の方と会う機会はほとんど持てていないのが現状です。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の個性や生活歴その時々状況、相性などを考え職員が調整役となり入居者様同士が支えあい助け合う事ができるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先での生活(サービスを含)が安心安全に過ごしているか退去後の様子をご家族に伺ったり、お困りの際には相談に乗るようにさせていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活となるべく変わらぬよう居室の家具の配置を工夫したりして安心安全に過ごしていただけるようにしています。居室には名札を付けたり廊下に出るとトイレがすぐに確認できるようにして不安を軽減するようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の皆様との会話やコミュニケーションの中から今までの生活やなじみの暮らしを聞かせていただき、ご家族からも生活歴などの情報を聞き把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個々の日々の様子を観察したり、介護記録や業務日誌、カンファレンスで職員間で情報を共有するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃からご本人の気持ちを考え、ご家族様の意向を伺い、毎月行う職員会議の中で看護師を交え居室担当を中心にモニタリングを行い日頃の気づきを介護計画に反映するようにしております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、健康管理表、排泄管理表等で日頃の状況を把握し、介護記録に実施内容を記録し、申し送りノートを活用して情報の共有を行い介護計画の見直しに役立てています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様本人やご家族様の要望、その時々で抽出される問題に法人全体で対応して可能な範囲で柔軟に支援ができるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で近隣の人々の受け入れや行事等が中止になっている為難しい状況ではありますが、職場体験や実習生の受け入れは積極的に行い新たな人材確保にも勤めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にご本人様、ご家族様の医療に対しての要望を伺い、継続してかかりつけ医に通院されるか、施設と連携している訪問診療医に変更するかを選択していただき、適切な医療を受けられるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師が週3回健康チェックを行い、職員会議に参加して情報の共有に努め訪問医との連携を取り適切で迅速な連携が取れるようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院と連携を取り実際の状態の把握に努め、情報を提供していただき、施設での対応や体制を説明し、連携を取りながら早期退院につながるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の在り方について自施設の指針を説明させていただいております。 終末期には、主治医・ご家族様・看護師・職員で話し合いを行い、ご本人様・ご家族様のご意向に沿えるよう支援させていただいております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応するようマニュアルを用意し、入居者様の急変時や事故発生時に全職員が応急手当や初期対応ができるよう日頃から準備しています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設として年2回以上の災害時の訓練を実施し、地域との協力体制を築いています。また緊急連絡網を作成し、通信・連絡の職員による訓練を実施しています。また、法人全体及び施設としてのBCP計画の作成を進めています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、プライドやプライバシーを傷つけないよう温かい声掛けを行い受容の心で支援させていただいております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく、表情や動作をよく観察し、ご本人様の思いを受け止め、一人一人のご要望や自己決定ができるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々のペースや思いを大切に、一日をどのように過ごしたいかを聞き取り体操・レクリエーション等も取り入れご希望に沿った支援を心がけております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍で外出できる機会がほとんどありませんが、2か月に1度の訪問理容でヘアカットを行い、衣類を選んだりその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援させていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食はゼロクックを利用し、昼食・夕食はほとんどの日を調理員による手作りで食事を提供しております。おやつも以前は買ったものがほとんどでしたが、現在は調理員による手作りのおやつを提供しております。毎月1度は、お楽しみ食事会を開催しております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々の食事摂取量と水分量を記録し、水分摂取の少ない方にはゼリーを作り召し上がっていただいております。身体状況に合わせ、普通食・キザミ食・ペースト食の対応をしております。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにて口腔ケアを行っていただいております。出来る方はご自分で、できない方はお手伝いさせていただいております。義歯は夕食後お預かりさせていただき洗浄剤で消毒を行っています。7名の方が訪問歯科で口腔ケアや義歯の調整		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表をつけ、入居者様個々の排泄パターンを把握し、時間での声かけや表情に注意を払い誘導するなどの自立に向けた支援をさせていただいております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期を把握し、体操への声かけや主治医への相談等で個々に合わせた予防に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴の機会を提供しております。体調等により日にちの変更や時間の変更の対応をしております。状況により時間を問わずシャワー浴・手浴・足浴の対応をしております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は入居者様の体調や習慣に合わせ、必要に応じて居室で休めるよう環境づくりをしています。夜間気持ちよくお休みいただけるようリネン類の洗濯や布団干しを定期的に行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援・服薬介助を入居者の個々の状況に合わせて行っております。新しく処方された薬に関しては、体調の変化など注意深く観察し記録に残し、主治医や看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々の状態に合わせ、洗濯物干し・洗濯物たたみ・おしぼり巻き等出来ることを手伝っていただいております。ストレスの解消に散歩や体操に参加していただいております。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会がほとんど持てず、建物の外に出るのは敷地内の散歩や近隣の公園への散歩を楽しまれております。車窓から季節の移り変わりを感じていただけるようドライブを定期的に行っております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居なさる際にご家族にトラブルのもとになることをご理解いただき金銭の所持はお断りしています。但し所持していないことで不穩になる方もいるため最低限の金銭を所持することは許可しています。必要な日用品などは、預り金や立替えも対応		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、各フロアや事務所から電話をご利用いただけます。手紙はご希望により年賀状やお手紙の支援をさせていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるよう入居者の皆様で壁紙づくりをしたり、窓からや外に出て自然の景色を楽しんでいただいております。清掃をこまめに行い、清潔で明るく現在は定期的な消毒で感染症にも気を配り居心地の良い環境づくりに取り組んでおります。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルやいす、ソファ、簡易ベッドを置き、お好きな場所で過ごしていただき、入居者様の相性により定期的な席替えを行い会話を楽しむ空間づくりを心がけております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際にご家族に依頼し、使い慣れたものやお気に入りのものを持ってきていただき居心地の～空間づくりを工夫しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線を考え居室内の模様替えを行い自立支援のお手伝いをさせていただいております。居室の名札やトイレの表示などで入居者様が迷わないよう工夫しております。		